

一般入試前期A日程2日目

国語

一

出典 丸山宗利「昆虫はすごい」(光文社 2014年)

昆虫の生態には種々様々なものがありますが、問題文にはその中から擬態に関することが述べられています。隠蔽擬態や化学擬態などについて具体例を挙げて書かれており、文章自体は平易なものです。それだけに落ち着いて内容を整理する必要があります。

問1【漢字の書き取りの問題】(解答番号は①～⑥)

a 乾燥地帯、b 嗅覚、c 偉大、d 標本、e 触角、f 斬新、がそれぞれ正答です。eは「触覚」とした解答が目立ちました。文脈を押さえてから解答するようにしましょう。全問正答率は4%でした。

問2【空欄補充・文脈を押さえる問題】(解答番号は⑦)

空欄①のヒントは、本文最初にある「突然変異と自然選択の膨大な積み重ね」です。正答は④、正答率は38%でした。

問3【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ問題】(解答番号は⑧)

空欄②は、前段落に「単に見た目だけでなく、体表の成分までその植物に似せている」とあることを押さえることができているならば、正答を導くことができます。正答は①です。正答率は88%でした。

問4【空欄補充・文脈を押さえる問題】(解答番号は⑨)

空欄③の、直後の段落をまとめた内容が入ります。正答は⑥です。正答率は86%でした。

問5【空欄補充・文脈を押さえる問題】(解答番号は⑩)

空欄④を含む節の最後から2段落目に「やはり警告色として目立つ色をしている」とあることがヒントです。正答は②です。正答率は62%でした。

問6【空欄補充・文脈を押さえる問題】(解答番号は⑪)

空欄⑤以後の内容をまとめたものが入ります。正答は⑦です。正答率は86%でした。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑫)

文脈把握とともに傍線部Aの主語が何であるかということ問うています。正答は④です。解答を②とした受験生もいましたが、②は「生物が『これをまねよう』と思って模倣している」というのが間違いです。正率は70%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑬)

傍線部Bの直後をまとめた内容が正答になります。正答は③です。正答率は83%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑭)

マネシアゲハの擬態の内容は、傍線部Cの直後に書かれています。その箇所を過不足なく押さえる必要があります。正答は⑥で、正答率は88%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑮)

傍線部Dを含む節をまとめる必要があります。正答②です。①は「各種昆虫」、⑤は「カミキ

リムシをまねた擬態」とある点が間違いです。正答率は33%でした。

問11【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は16）

空欄 **乙** の正答が「歩く宝石」であることがすぐわかり、そこから正答を導くことができます。正答は⑤です。正答率は33%でした。

問12【内容合致問題】（解答番号は17）

正答は②と④です。①「別名をもつ」、③「赤色と黒色の縞模様」、⑤「カノコガというガのなかま」、⑥「擬態そのものに価値がない」、⑦「黒色・黄色・赤色の模様が混ざりあう」、⑧「模倣は常のことといえる」がそれぞれ本文には記されていません。完全正答率は39%でした。

一
一

出典 池内了「疑似科学入門」（岩波書店 2008年）

占いや超能力など、我々の身近で見かける「疑似科学」に焦点を当て、疑似科学に陥らないようにするにはどのようにすれば良いかを論じた本です。論旨は明快ですから、文意を掴むのは容易でしょう。

問1【漢字の読み・書き取りの問題】（解答番号は18～23）

a へいそく、b 符合、c 迎合、d 払拭、e 忌避、f 実相、が正答です。全問正答者は1%でした。bを「符号」と書く誤答が目立ち、簡単な字であるにもかかわらずfが不出来でした。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ問題】（解答番号は24・25）

空欄 **I** はすぐ後の「(肉体を隔離すれば)」が、空欄 **II** は直前の「社会に従属するだけ」がヒントになります。正答は **I** が⑨、**II** が⑦で、正答率はそれぞれ83%、68%でした。

問3【空欄補充・前後の文脈から適当なものを選ぶ問題】 解答番号は26)

難しいかもしれませんが空欄の前後の「宣伝文句」、「『科学らしさ』の装い」をヒントとし、直後の「これが実に効果的」に的確につながるかという点を意識して考えれば、正答は⑥であると導けるでしょう。⑧を選ぶ誤答が全体の37%ありましたが、疑似科学にはまる理由を解説しているという文脈に添っておらず、⑧は正答にはなりません。正答率は27%でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は27）

傍線部Aの直後の段落をよく読めば正答は④だとわかるでしょう。正答率は61%でした。

問5【言葉の意味に関する問題】（解答番号は28）

正答は⑥の「馬耳東風」で、「他者からの意見や批評を気に留めず、聞き流してしまう」という意味です。正答率は44%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は29）

傍線部Cから離れますが、本文12頁の2・3番目の段落をよく読み、本文における筆者の主張を的確に掴みさえすれば、正答が②であるとたやすく気づくはずで、正答率は81%でした。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 30）

傍線部Dの直前にある3つの文をしっかりと押さえれば、正答は①だと容易にわかるはずです。正答率は76%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 31）

傍線部Eの2行後の文を読めば、正答が⑤だと気づけるでしょう。全受験生の38%が④を選んでいましたが、「用心深さを生まれつき備えており」が誤りです。正答率は42%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 32）

傍線部Fに続く文章を熟読すれば、容易に正答できるはずです。正答は③であり、正答率は77%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 33）

傍線部Gが含まれる段落の内容を十分に把握しさえすれば、正答は①、④、⑨だと簡単に導き出せるはずです。①、④、⑨のいずれも全受験生の半分以上が選択していましたが、これら3つを全て選んでいる受験生はさほど多くなく、完全正答率は35%にとどまりました。

問11【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 34）

本文11頁の後ろから3番目の段落の内容を踏まえた上で、傍線部Hの直前の説明を押さえれば正答は⑤であると導けます。③を選ぶ誤答が全体の24%ありましたが、本文で筆者は「教育現場を崩壊させ」とまで述べていません。正答率は48%でした。

問12【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は 35）

正答は⑦で、正答率は71%でした。この節で筆者は「疑似科学は永遠に廃れないと言えよう」と述べ、その理由を詳細に説明しているということを確認してきてさえいれば、正答するのは容易です。

問13【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は 36）

この節で筆者は疑似科学に対する処方箋として「疑う」ことの重要性や「懐疑する心」を養うことの必要性を幾度となく説いていますから、正答は②であることが容易にわかるでしょう。正答率は80%でした。

問14【内容合致問題】（解答番号は 37）

正答は③と⑧で、完全正答率は19%でした。③は本文12頁の後から2番目の段落に、⑧は11頁の8～15行目に書かれている内容です。受験生の25%が⑤あるいは⑦を選んでいました。本文12頁の5～6行目で「世の中が円滑に回るためには、共通に定められたルールを『信じる』ということが欠かせないのは事実である」と筆者は述べていますので、⑤の「世の中のルールや自然界の現象に対し決して信じることなく疑い続けるのは重要である」は本文の内容に合致しません。また、本文12頁の1行目には「大人が子どもを挑発する必要がある」と書かれており、⑦の「大人を子どもが挑発する」も本文の内容に相違します。